

症状および兆候

文献

Chen Jun, Sadakata Mieko, Ishida Mayumi, et al. ベビーマッサージは満期新生児の新生児黄疸を改善する. *The Tohoku Journal of Experimental Medicine*. 2011; 223(2) : 97-102. 医中誌 web ID 2011323377

1. 目的

満期新生児の新生児黄疸におけるベビーマッサージの効果の評価

2. 研究デザイン

準ランダム化比較試験

3. セッティング

関塚医院

4. 参加者

新生児 69 名(胎齢 37~41 週、出生時体重 2,800~3,600g)

5. 介入

Arm 1 : 治療群 29 名(1 日 2 回 15-20 分のベビーマッサージを 5 日間。脱落 7 名)

Arm 2 : 対象群 40 人(通常のケア。脱落 18 名)

6. 主なアウトカム評価項目

排便頻度(1~5 日目)、経皮的ビリルビン濃度(1~5 日目)、血清ビリルビン値(4 日目)

7. 主な結果

1) 排便頻度 : 1 日目と 2 日目で、対照群(3.3, 2.6)に比べ治療群(4.6, 4.3)で有意に多かった($p<0.05$, $p<0.01$)。3~5 日目では、治療群でやや多かったが有意差はみられなかった。

2) 経皮的ビリルビン濃度 : 1 日目では、対照群と治療群の間に有意差はみられなかった。2~5 日目では、各日で対照群に比べ治療群で有意に低値だった($p<0.05$)。

3) 血清ビリルビン値 : 総ビリルビン値は、対照群(13.7 ± 1.7 mg/dl)に比べ治療群(11.7 ± 2.8 mg/ml)で有意に低値だった($p<0.01$)。非抱合型ビリルビン値は、対照群と治療群の間に有意差はみられなかった。

8. 結論

産後早期のベビーマッサージは、新生児のビリルビン値を減少させる可能性がある。ベビーマッサージは、新生児黄疸の軽減に有用であることが示唆された。

9. 論文中の安全性評価

新潟大学大学院保健学研究科の倫理委員会の承認を得て実施された。

10. Abstractor のコメント

本研究は、新生児黄疸にベビーマッサージが有効である可能性を示した興味深い研究である。産院で研究を行うことで、マッサージ研究としては比較的豊富なサンプル数を確保しており、アウトカムにも客観性の高い指標を採用していることから、信頼性の高い研究結果が得られている。

ただ、新生児の誕生日による割り付けを採用しており、ランダム化が不十分である。また、本研究では全身のベビーマッサージを採用しているが、ベビーマッサージが新生児黄疸を軽減した機序として、排便頻度の増加に伴うビリルビン排泄量の増大が推測されることから、マッサージ部位を腹部に限局した場合の効果等についても今後の検討が待たれるところである。

本研究が新生児黄疸へのマッサージの臨床応用の可能性を示した意義は極めて大きい。今後は、多施設間 RCT の実施や、新生児黄疸以外の産科・小児科領域での臨床研究の進展が望まれる。

11. Abstractor and date

福島正也 2015.3.12